

2021年1月18日
日本製鉄株式会社

超ハイテン鋼板の供給体制を強化

～東日本製鉄所君津地区第6CGLの商業運転を開始～

日本製鉄株式会社（以下、日本製鉄）東日本製鉄所君津地区では、第6CGL（溶融亜鉛めっき設備）の商業運転を1月16日に開始しました。本CGLは、月産能力は33千トン、強度1.5GPa級の超ハイテン鋼板(*)の製造が可能です。

自動車業界においては、世界的に環境規制強化と衝突安全基準の厳格化が進み、車体の軽量化・高強度化ニーズの高まりから、各自動車メーカーでの超ハイテン適用が増加しており、今後も需要拡大が見込まれます。また、今後、更なる普及が見込まれる電気自動車などの電動車においても、走行距離やバッテリー重量の問題により、車体軽量化のニーズが一層高まるものと考えられます。こうした車体の軽量化・高強度化を実現する超ハイテン鋼板のニーズ拡大に対応するため、超ハイテン鋼板の供給体制を強化しました。

日本製鉄は、常に世界最高の技術とものづくりの力を追求し、国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)にも合致した活動（「気候変動に具体的な対策を」）に資するハイテン鋼板の供給を通じて、これからも社会の発展に貢献していきます。

(*)1.5GPa級の超ハイテン鋼板

GPa : ギガパスカル。パスカルは引張り強さや圧力の単位。

ハイテン : High Tensile Strength Steel（高張力鋼）の略称。

引張り強さが1.0GPa以上ある鋼板を超ハイテン鋼板という。

引張り強さ1.5GPaのハイテンは、1mm²あたり150kgの力が加わるまで破断しない。

お問い合わせ先：総務部広報センター 03-6867-2146, 2135, 2877, 3419

以 上